

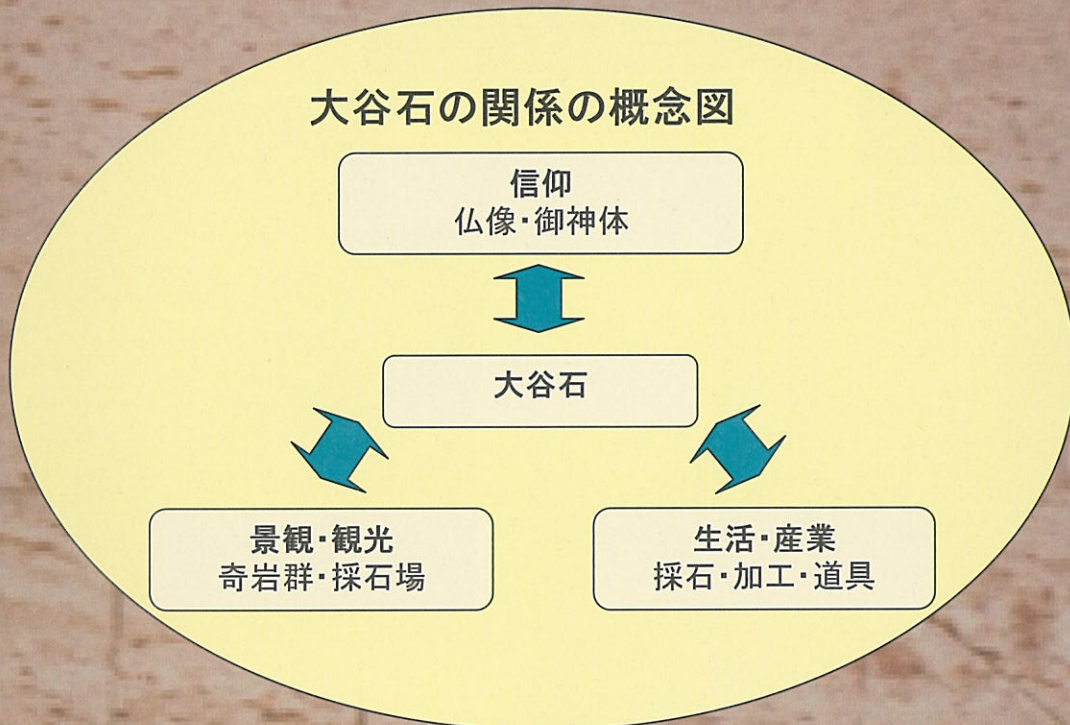
石のまち大谷の景観

石のまち大谷には、自然がつくり出した凝灰岩が広く分布し、長い歳月にわたって石と人間が関わることにより、独特の景観が生み出されてきました。

ここで産出される石は大谷石と呼ばれ、その時代の人々の用途に併せ加工され利用されてきました。これらの大谷石は現在の人々の生活の中にも息づいています。

自然美と人工美が融和している大谷の景観は、多くの人々が訪れると共に古くから芸術作品などにも採り上げられ、多くの人々に賞賛されてきました。ここ石のまち大谷の景観は、文化財としての価値も有し全国的に評価されています。

大谷石の関係の概念図



名勝

名勝とは、日光華嚴の滝と中禅寺湖などの自然的景観や、水戸の偕楽園のような庭園の人文的な景観などの古くからの名勝地のうち、芸術上、鑑賞上の価値が高く文化財としての価値を有する景勝地は、国が名勝に指定し保護を図る制度です。

大谷の奇岩群のうち、御止山と越路岩の2箇所が平成18年7月28日に国の名勝に指定されました。

文化的景観

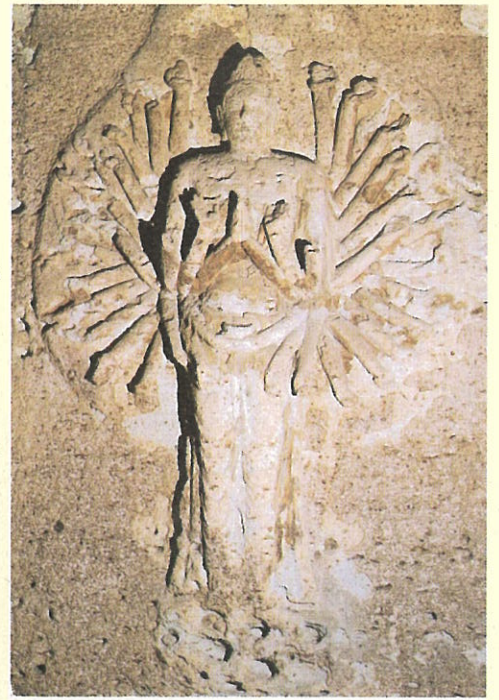
地域の風土に根ざして人々の生活や仕事により営まれ形成されてきた景観地で、人々が自然と共生しながら育んできた原風景ともいえる景観の中です。こういった景観を、国が重要文化的景観に選定し保護を図る制度が平成17年に創設されました。

所有者や地域住民と行政が、約束事を取り決めて、景観を保護していく制度です。

信 仰

いにしえの人々は奇岩が連なる幻想的な岩肌へきめんの壁面に仏の姿を刻み、田んぼのなかにこつぜん忽然とそびえる奇岩をご神体とするなどして、大谷石を信仰の対象としてきました。

また、大谷石は墓石や野仏のぼとけ、神社の祠ほくらなどにも形を変え、現在も人々の心の拠り所よりどころとなっています。



国指定重要文化財・特別史跡
おおやまがいぶつ
大谷磨崖仏（大谷観音）・平安時代初期



平和観音
(昭和31年開眼)



名勝 御止山と大谷寺の本堂
大谷石の岩肌に摩崖仏・大谷観音が刻まれている



奇岩「ダルマ岩」 岩原神社のご神体



立岩神社
大谷石の鳥居・社殿と奇岩

大谷石の採石場は「ヤマ」とよばれ山ノ神は、大谷石の採石を行う「ヤマ」ごとにまつ祀られます。

今でも、作業の安全などを祈願するための「大山ノ神」が1月と10月に昔と同じくと執り行われています。



大谷石材協同組合の「山ノ神」

奇岩の景観

大谷は古くからの景勝地として知られ、紀行文や絵画、絵葉書が残されています。その素材のほとんどが自然的景観である奇岩群や人工的景観である採石場などです。

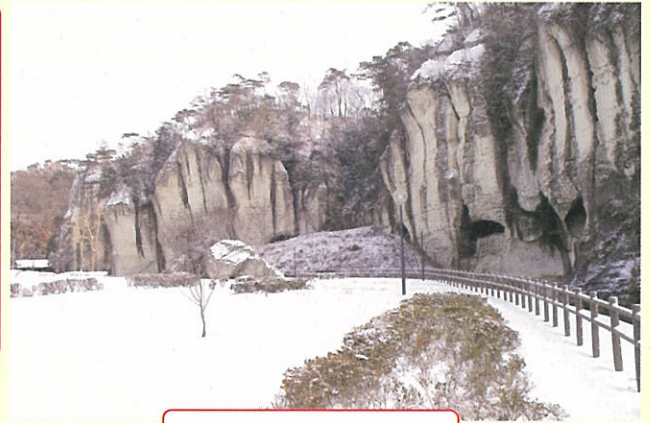
大谷の奇岩のうち、^{おとめやま}御止山と^{こしじいわ}越路岩は優れた景勝地であり文化財的な価値が高いことが評価され、国の名勝指定を受けました。



大谷の奇岩 越路岩

国指定名勝

大谷の奇岩群



大谷の奇岩 御止山



センニン洞

仙人が住んでいたとも
千人の人が入れるから
ともいわれる

奇岩 「鶴岩」

姿川を挟んで鶴と
亀がいる



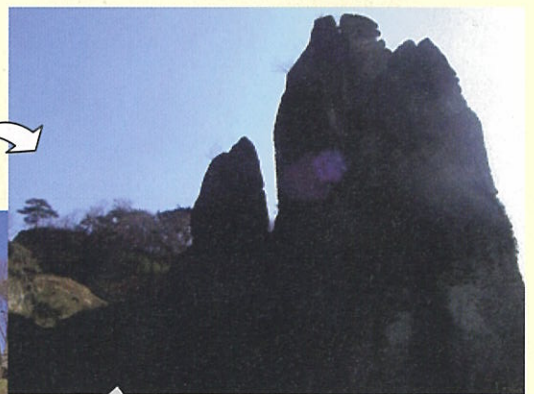
呼び名のちがい

奇岩の中には、見る角度により呼び名が違うものもあります。

「^{べんけい}亀岩」「^{たちわ}弁慶の太刀割り岩」は同じ岩ですが、見る方向で印象もまるでちがいます。



奇岩「亀岩」と桜
(南から)



「弁慶の太刀割り岩」
(北から)

景観のうつりかわり

時代の移り変わりにより、岩の印象も変わります。
古写真などから景観の変遷を知ることができます。



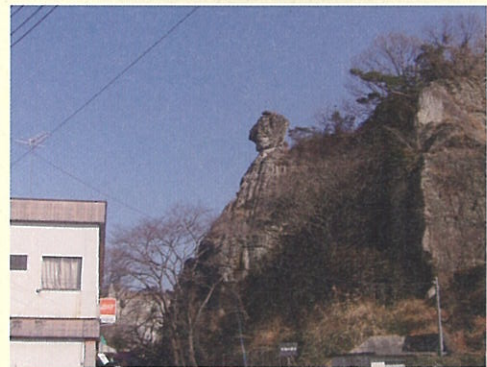
大谷の奇岩群に擦り付けられた石屑
(昭和初期)



現在の奇岩群 中央右が兜岩
石屑(コッパ)に草木が茂っている



奇岩「天狗の投げ石」
(明治時代) 手前をトロッコが走る



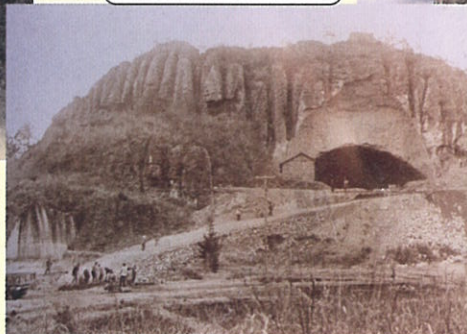
現在の「天狗の投げ石」
奥には平和観音が刻まれ、道路が整備された

この場所は「材木岩」と呼ばれる柱状の縦溝が連なる奇岩のひとつでした。
第二次世界大戦中に、大きな穴が開けられて軍需工場となり、終戦後は採石が行われ、現在のような風景になっています。



明治時代

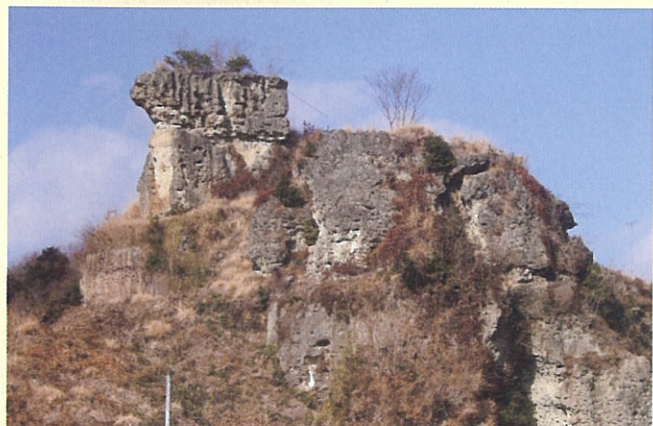
昭和20年ごろ



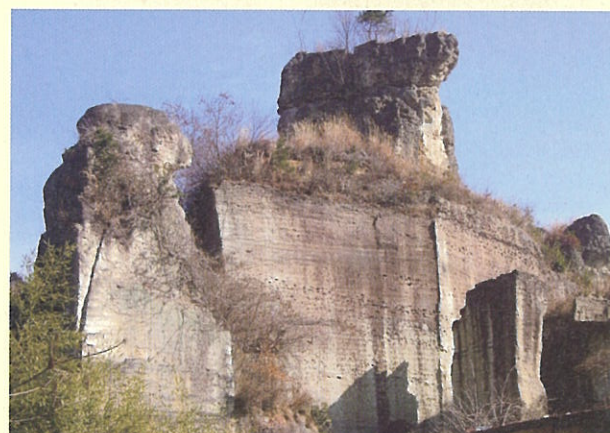
現在の材木岩

大谷は採石産業で栄えたまちです。自然の奇岩の周りには、採石産業がつくり出した景観があります。

同じ岩でも見る方向によって印象がまるで違って来るなど、自然景観と人工景観が織りなす不思議で奇抜な景観が大谷の特徴です。



奇岩「ラクダ岩(仮名)」
東から見たところ



奇岩「ラクダ岩(仮名)」
西から見ると石を切った跡がある



大谷公園 石を切った痕跡



御止山に開いている穴
第二次大戦中に造られた地下軍需工場の入口



ろてん
露天掘りの採石場

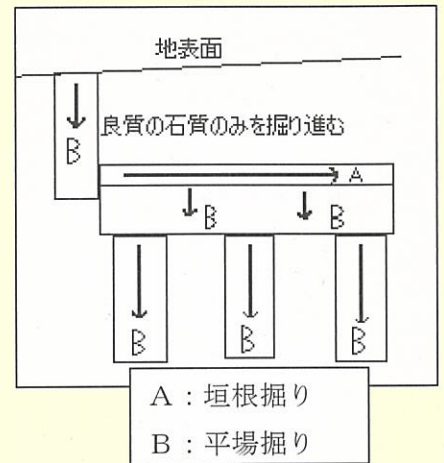


ホテル山 (旧帝国ホテルに用いた採石場跡)
鋭角に切り取られた不思議な景観

採石の歴史

大谷石の採掘方法は、垂直に掘り下げる「^{ひらば}平場掘り」と水平に掘り進む「^{かきね}垣根掘り」があります。大正時代初期に垣根掘りが伝えられ、作業効率が良くなりました。また、昭和30年代には採石に機械が導入され、生産が急増しました。

現在でも垣根掘りの跡などの手掘り跡を採石跡に見ることができます。



垣根掘り
狭い中を横に掘り進む



平場掘り 垣根掘りで出来た空間を
下に掘り進む



機械掘り導入当時

物流のうつり変わり

明治時代には軌道が^{きどう}敷設され^{ふせつ}トロッコによる輸送が開始され、昭和に入ると^{けいべん}軽便鉄道が敷設されました。昭和20年代になるとトラック輸送に取って代わられました。大谷石流通の原動力となった軌道の跡は、現在でも道路として残っています。



トロッコでの出荷



軽便鉄道
(現在の瓦作街道横の歩道)



トラック輸送

生業

大谷には大谷石の採石や加工を生業とした人たちが多く暮らしています。

石材の加工技術は長い歳月に渡って伝承され、現在に伝えられています。



大谷石の加工



伝統的な大谷石細工



新たな大谷石細工

建造物

大谷のまちには、特産の大谷石を用い様々な意匠を凝らした石造建造物が数多く残され、石塀や土留めなどにも用いられています。

これらは大谷を中心に宇都宮市内でいたるところで見ることができ、特徴的な景観を造り出しています。



栃木県指定有形文化財

びょうぶいわ
屏風岩 石材 石蔵 明治時代造



国登録有形文化財

旧大谷公会堂 大正後期造



長林寺

石屋根の山門

大谷石造の

農業用ポンプ小屋



大久保石材旧事務所

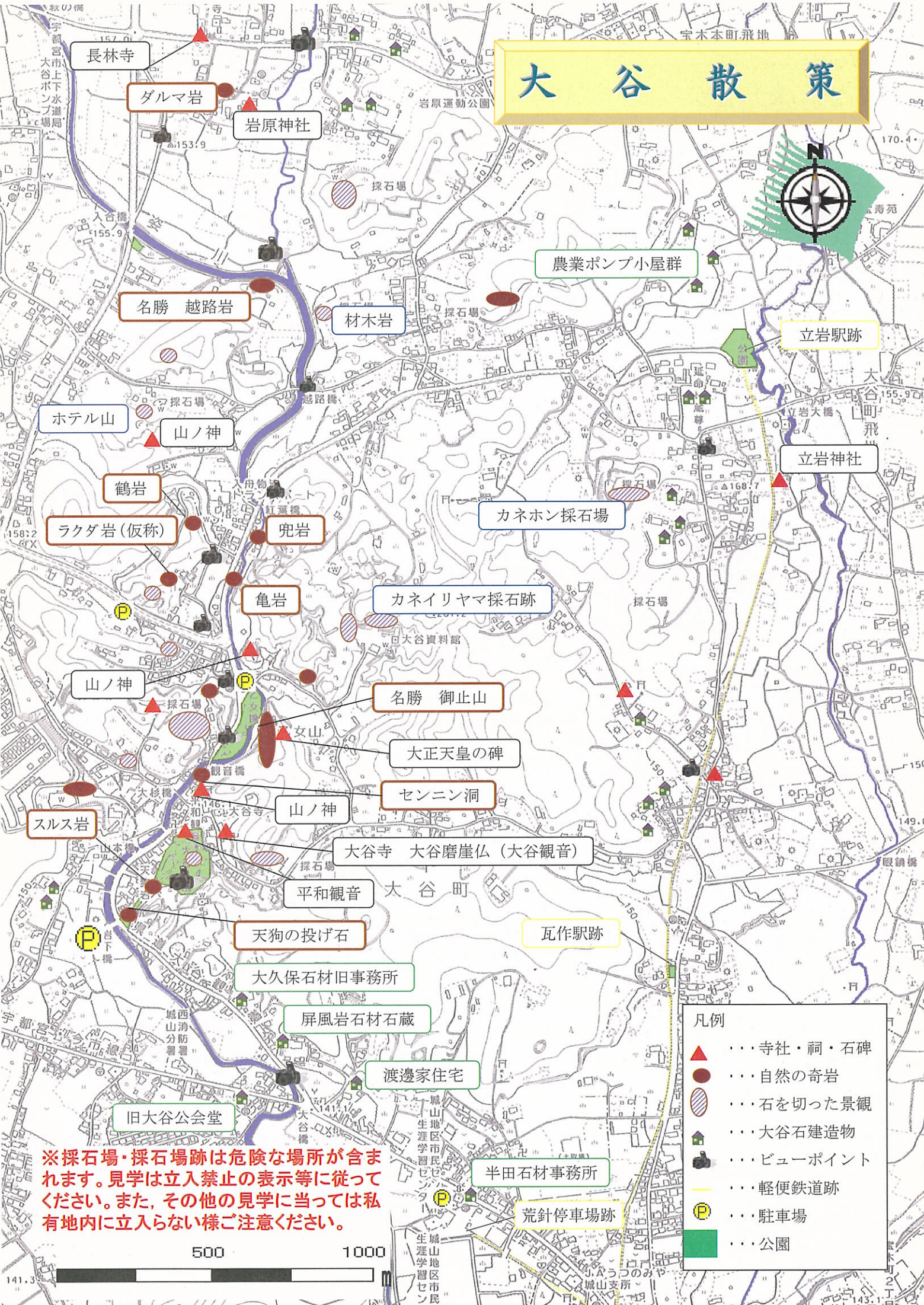


石造の長屋門のある景観



半田石材事務所

大谷散策



※採石場・採石場跡は危険な場所が含まれます。見学は立入禁止の表示等に従ってください。また、その他の見学に当っては私有地内に立入らない様ご注意ください。

- 凡例
- ▲ …… 寺社・祠・石碑
 - …… 自然の奇岩
 - ◐ …… 石を切った景観
 - 🏠 …… 大谷石建造物
 - 👤 …… ビューポイント
 - …… 軽便鉄道跡
 - 🅑 …… 駐車場
 - 🟩 …… 公園

500 1000

